

3・20渋谷へ!

全学連(織田陽介委員長) 書記局通信

2011年2月26日

No 4

Tel 050-3036-6464

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

巨万のデモで菅倒せ!

激動の3週間決戦へ!

イエメンにおけるデモ(2月22日)

【1】2・22第2回実行委員会での織田委員長の提起

【0】はじめに

(1) 前回の実行委員会から
情勢がひっくり返った

中東から今、現実の革命が起
きています。

誰もがこの社会を根本から変え
たいと思っています。

エジプトの情勢は、あらゆる人
の「革命をやりたい」との思いを
鮮明にさせました。だからこの

「エジプトのように闘いたい」という思いに応えるような
方針を、応えるようなピラを僕らは出してかなきゃいけな
い。

エジプト情勢は波及しないという宣伝は現実によって日々
粉碎されています。問題はエジプトとの連帯とは一体何な
のかということです。どんな潮流もエジプトに続けとは言
わない。エジプトのようなデモを本当にやりたいんだとい
う勢力は我々です。ごまかしの議論が横行している現実を

突破して、我々こそが本気になってエジプトようなデモを
やると真正面から打ち出していく。

菅政権への怒りが爆発

二つ目に、菅政権への怒りが爆発しています。

街頭は「菅を倒してどういう社会をつくるんですか」と
いう議論になっています。だから新しい運動を始めよう。
自民党だとか民主党だとか、どうせ投票したってなにも変
わらない。投票するところがないんだったら、自分たちで
新しい運動始めよう。そういう5000人集会をやるんだ。
新しい運動をここから始めるんだという宣伝をやっていこ
う。

三つめは、3・20が今本当に求められているというこ
とを僕らが確信をもつことです。

(2) 1~2月の闘いがものすごい前進を切り開い
ている

略

【1】エジプト連帯デモを！

（ 0 ）エジプト情勢が示したもの

５０００人のエジプト連帯デモをやろうということを街頭で訴えていきたい。

エジプト情勢が示したものは僕は大きく二つあると思っています。一つは時代認識で、もう一つは路線です。

（ 1 ）この間の流れ

まず闘いはチュニジアから始まりました。去年の１２月２７日に一人の青年が焼身自殺をしたというところから、ものすごい勢いで闘い爆発していきます。この核心に労働組合の闘いがありました。さらにこれは一気に中東全域に波及。リビアではカダフィ打倒の闘いが爆発し、これに対して無差別空爆が行われて、１６０人が殺されています。

チュニジアでは政権に入った野党をさらに打倒するというで４万人のデモが行われました。

エジプト革命

チュニジアの情勢を受けて１月２５日には「怒りの日」として闘いが始まりました。

２月２日から３日に大統領支持派の襲撃があり、１３人が死亡、５０００人の負傷者を出しながらタハリール広場を守り抜き、４日の大デモがそのあと爆発して、治安部隊を逆包囲、８～１１日の１００万デモでムバラクを打倒しました。軍の支配の中で彼らは命がけで闘いました。

先頭に立ったのは青年労働者と学生です。４月６日運動やスエズ運河の６千人のスト、もしくは大学が学生によって同盟休校。大学の中ではいくらでもデモをやってもいいけど、学外に出てならないという中で、それを何度も何度も突破するために必死になって闘って、労働者と連帯するんだということでデモが爆発して、それをぶち破って学生が決起していく。このような過程を経てあの闘いが進んでいきました。

闘いはこれからだということで、ただちに勝利集会がタハリール広場で開催されて数十万人のデモになりました。



勝利に沸くエジプト（２月１３日）



リビアでのカダフィ打倒のデモ（２月２０日）

さらに労働者のストライキや生産管理闘争が今も続けられているという状況で、軍がデモとストを制圧するかもしれないと言われています。

さらにこれがバーレーンに飛び火して４日に数千人のデモと、警察の襲撃と死者が出るということになりました。実はこの国にはアメリカの第五艦隊があります。海を隔ててイランをにらみつけるような国が今ひっくり返るかもしれない。

２１日には、２万人でデモが爆発して、これは過去最大と報道されています。

リビアはさっき言った通りで、さらにイラン、イエメン、ヨルダン、アルジェリア、遂にサウジアラビア（最大の石油産油国）で爆発しようとしている。さらにクウェートでもデモが起きています

中国でも闘いが始まった

さらに中国でこれが爆発した。「集まってともにスローガンを叫べばともに変革が始まる」—これが中国の青年労働者の言葉です。ネットの遮断だとか、秘密警察による拉致事件が多発していて、民主的な大学教授なんかが次々姿を消すなんてことが報道されています。地位がない活動家は報道もされないまま拉致されているといわれています。

北朝鮮でも軍が反乱したと報道されています。さらに韓国でも労働運動が爆発している。さらにこれがアメリカに飛び火している。

今軍事独裁に命をかけて闘いに立ち上がる若者の姿に世界中が感動している。そして立ち上がっている。この闘いに続けというスローガンが叫ばれていない国は一つもない。

（ 2 ）大恐慌は戦争と大失業、そして革命を生み出した

大恐慌が大失業と戦争を生み出して、労働者民衆の怒りがついに現実の形となって爆発を開始したという時代認識が重要です。逆に、ムバラクが倒れた時の夕刊では「中東独裁からの転換」と報じられています。つまり文化的に遅

れた中東で独裁が倒れたということです。

でも文化的に遅れていて独裁があったわけじゃなくて、アメリカが支援していたんです。アメリカの石油支配のための独裁です。

大恐慌の中で世界の労働者の怒りが革命となって爆発を開始しています。この時代認識が重要です。

エジプトで起きていることは大失業と食糧危機です。食糧危機の話をすれば、02年から04年を100とした場合に、現在の食料価格は230・7になっています。もう2倍以上になってる。世界のGDPの3分の1ぐらいがアメリカと日本で、しかも両国は今デフレです。これを全部差し引いて230%です。今世界はこういう状況です。08年のリーマンショックから、世界的な金融機関の破綻と財政投入が行われて、さらに去年の11月に第2次財政投入で、9000億ドルが投入され、国債を中央銀行が買い取る過程に入りました。そうした中でドルが市場に大量にばらまかれ、その量はリーマンショックの前の2倍になっています。余った金がどんどん食料を高騰させている。単に食料が高いことが問題になっているんじゃないくて、世界の数十億人の人たちの食料をつりあげて、ボロ儲けして延命してきたのが今の体制なのです。

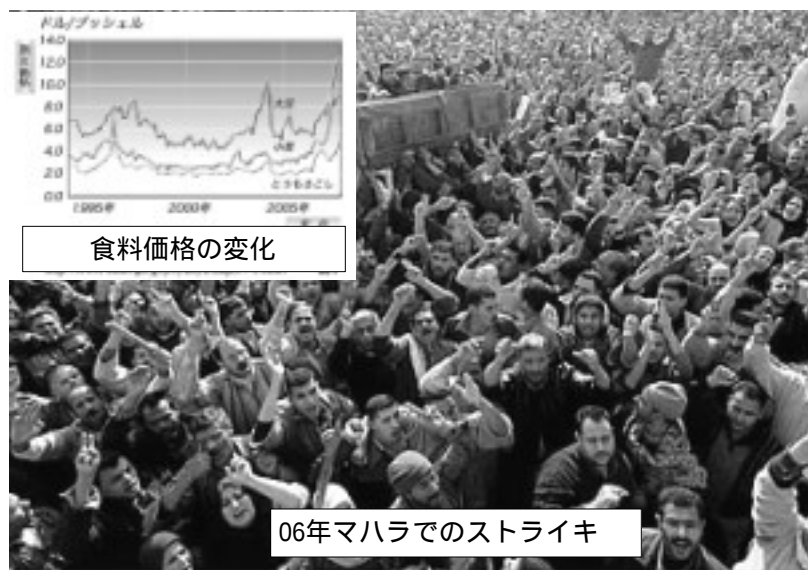
しかもそれだけでなく、世界的な緊縮財政が行われ、新植民地体制諸国は、多額の借金を背負わされてきた。破綻したらIMF管理体制下に入って、後は民営化や非正規職化。ヨーロッパやアメリカの企業が入って、水道から何から全部民営化される。みんな非正規化される。食料価格の規制が緩和されて、市場がどんどん開放されていく。こういうことが行われてきました。世界の労働者を非正規職などに突き落として延命してきたのがアメリカです。だから世界の怒りが革命によって爆発していくことは不可避だし、これはどこまでも拡大します。

軍事独裁だろうがムスリム同胞団だろうが大恐慌を解決する力はありません。資本主義がここまで来てるわけですからね。労働者以外解決できない。

アメリカが全矛盾を世界に押し付けて、闘いに立ち上がったら戦争をやる、これが今の戦争の本質ですし、こんな戦争は絶対に許せません。

(3) 階級的労働運動の正しさ

エジプトの闘いは、僕らの階級的労働路線が正しいということを証明しました。1月30日にエジプト独立労働組合連盟という新しい労働組合が設立されました。彼らは「労働運動の闘いが現在の革命を切り開いた。だからこそ、エジプトの労働者は『官製』のナショナルセンターが労働者の代表として語ることを全面的に拒否するのだ」と言って、官制労組解体の闘いをやっています。これは連合の支配下にある日本の労働者の思いそのまんまじゃないですか。



だから僕が言いたいことは、連合支配を打ち破って闘う階級的労働運動路線の正しさ、私たちの闘いのこの先に本当に社会を変革する力があるということです。

中東における階級闘争

ここまで到達するために、中東の労働者は血と涙の歴史を経てきました。

中東というのは1920年代から石油が発見され始めて、30年代から本格的な石油争奪戦に入りますが、一貫して帝国主義の石油支配と戦争の歴史です。48年にイスラエルが建国され、これをソ連が認めます。社会主義と言われた国が、イスラエルを認めた。

そのあとベトナム革命というものすごい革命が切り開かれて、アジア・中東も含めてベトナムに続けと闘うんだけど、これをつぶしたのもソ連のアフガニスタン侵攻です。社会主義を名乗ってた国が、侵略戦争やる。そのなかで、もうマルクス主義なんてダメだと一旦はなります。

そういう中から、50年～60年代年のアラブ民族主義の高揚のなかで、ナセルがアラブ諸国を全部束ねてイスラエルと戦争をやります。10日間の戦争をやってこれは負けます。第4次中東戦争(73年)にもエジプトは負け、78年にキャンプ・デービッド合意でイスラエルを承認して、和平を結びます。オスロ合意でパレスチナ闘争を最先頭で闘ってきたPLOを屈服させるのもエジプトです。

こういう歴史の中から、米帝支配の崩壊とイスラム原理主義の限界からイラン革命が起きます。これ自体は、アメリカの軍事基地国家がぶつつぶれるっていうものすごい革命ですが、最後はイスラム原理主義に全部政権を取られて





労働組合が大弾圧を受けることになります。

しかし、パレスチナのハマス政権の登場やP L Oの屈服を乗り越えて闘うパレスチナ解放闘争は、それ自体イスラム原理主義の限界も持ちながら、感動的に闘いぬかれます。

そしてI M F体制下で新自由主義が一気に進行して、このなかで労働者が膨大に生み出されます。当時はエジプトとチュニジアとモロッコが一番安定している国だといわれていました。つまり独裁があるから政治的に安定していて、ここに一番工場を作り易いんだと言われていた場所が、今ひっくり返っているということです。それで労働者が膨大に立ち上がる、そして繊維労働者のストライキなんかが始まっていく。

この中から、階級的労働運動が持っている威力であり、僕らがやっている闘いの正しさを核心をもって掴み取ることが重要です。

(4) 戦争の危機と日米安保体制。世界史的焦点としての日本

その中で僕が言いたいことは、戦争の危機、とりわけ日米安保体制の問題です。

石油をドルが支配できなくなったら、ドルはもう最後的に終わると言われています。つまりドルは紙くずになるということです。だけどこれを、アメリカ帝国主義がそのまま指をくわえて見ているということはありません。問題は米日の軍事介入ということになってきています。

菅が今年6月訪米しようとしている。共通戦略目標を確定して、世界安保へ飛躍する。日米安保を使って中東まで行く、朝鮮、中国、中東まで行ける。こういうものを創り出そうとしている状況のなかで、朝鮮半島で作戦計画がどんどん進められている。戦争が革命を圧するのか、革命が戦争を圧するのかということで、どちらかしかない。革命が起きてこれを戦争でつぶそうとし、革命がこれ乗り越えて戦争を止める。どちらかしかない。もっと言えば、それは日米安保が日本の民衆を動員するのか、それともわれわれが日米安保を粉砕するのか。こういう問題になっている

るということです。

時を同じくして沖縄の怒りが爆発しています。鳩山の「方便」発言で、もう「抑止力なんてウソでした」となっている。だから、本当にこの沖縄の声と一つになって、日米安保粉砕、沖縄の基地を撤去しろと立ち上がるこそが、エジプト革命への最大の連帯だと考えています。だから5千人のデモで、やっぱり日本から、声をあげよう。

【2】渋谷大デモで菅を本当に倒そう

(1) 菅政権をぶっ倒す時が来た

3月20日に5千人のデモをやれば、菅が倒せると思うんです。

「特例公債法案」が国会を通過できない状況に追い込まれています。このまま言ったら4月以降、国会は止まるんです。日本の政治が止まるんです。だから、3月で予算が通らなかったら菅は総辞職か、もしくは解散総選挙かというのが、今の新聞の論調です。事の本質は、日本の民衆の怒りです。

だから、みんなの思いが今行動になれば、菅政権は倒せるんだということを本当に僕は訴えていきたい。

小沢問題

根本的な問題はT P Pともう一つは小沢問題です。一方では小沢処分の結果を見て国民は「不十分だ」と言って一気に支持率下がる。だけど他方では、処分に不服だと言って16人が出ていく。

小沢問題は一言で言って、安保・外交路線の破産です。ちょっと前まで、「東アジア共同体」が叫ばれていました。円ブロックを作って、独自の軍事力をもって、アメリカを追い出してアジアを囲い込む。これを日本の戦略にしようとしていました。しかし、結局円もボロボロだし、軍事力も全然発動できないし、アジア人民との関係やわれわれとの関係でも脆弱だという中で、T P Pと朝鮮戦争をもって、米帝にこの路線は粉砕されました。だから小沢も切って、日米安保にとことん依拠していくんだという路線に、転換したのです。

農民の決起

もう一つは、農民の怒りの決起です。





自民党だとか、民主党だとかそんな次元じゃなくて、全部ひっくり返っていく。逆に言えば、僕らの勢力も本当にひっくり返っていく。

最後に、連合支配です。民主党を支えている連合の支配が崩壊してっている。連合は消費税賛成です。賛成どころじゃないです。労働者の怒りに火をつけないように段階的に引き上げていこうという支配階級よりあくどいやりかたです。これから労働者の怒りが爆発していくことも含めて、菅政権が本当にボロボロになっていきます。

（２）菅を倒すことには巨大な意味がある

菅の次はいません。これぶっ倒したら日本の政治が本当に止まります。４月は統一地方選ですが、菅政権がそもそもぶっ倒れて、空白期間になって、政治が止まってどうするのか、そういう選挙になってもおかしくありません。菅政権を倒せという次元じゃなくて、労働者が権力とろうと言わなかったらあんまりリアリズムがない。そういう選挙にもなりかねない。

日本の政治が止まるとどうなるかと言えば、沖縄の基地が止まるんです。日米共通戦略目標の策定も止まるんです。全部止まるんです。もしくは大失業の問題だってそうです。

最後問題になるのは、菅を倒してどうなるかということです。街頭は全部そうなんです。怒りはある、けどどうするんですかと。

だから社会を根本から変えよう、自分たちの組織をつくらう、ここから新しい運動が始めようと真正面から提起したい。

【３】３・２０を勝利集会に

今の情勢の核心は組織攻防です。つまり、戦争が開始された中で、あらゆる組織をつぶす、これが敵の考えです。それはもう当たり前の話です。だから公安警察は必死です。

今の法大の攻防は、一年生に対して処分攻撃がやられようとしているということですが、学内ルールでの処分では

ありません。親を使って、「過激派になるくらいなら退学した方がいいですよ」と、こういうやり方なんです。

つまりもう処分できないのです。しかも、倉岡さんへの処分もできない状況の中で、だったら親を使えばなんとか退学にできるんじゃないかと。しかも権力とツーカーです。これへの怒りを爆発させなきゃいけない。だけど組織攻防戦は、この一人がぶっ立てばこれをチャンスに転じることができるのです。北嶋君もそう。市東さんもそう。法大一年生もそう。当該が立てば運動は爆発する、これはチュニジアで起きたことそのものです。だから、こんな権力当局一体となった弾圧は許せないと、許せないと思う人はみんな３・２０に行こう。

すごい攻撃なんです。激しいし、簡単じゃないし、けどこれをひっくり返して運動を爆発させていく力もまた、このなかにある。４月１日攻防を勝ちきるために、３・２０集会を成功させよう。

４・１攻防を勝ちぬく集会を

４月１日は、日本の階級闘争にとって重要な日です。ＪＲで言えば日本の賃金体系を全部ひっくり返す新人事賃金制度が導入され、外注化が強行されるかどうかの闘いになっています。さらには国鉄闘争団が国労の組合員権を剥奪されるかもしれない。もしくは倉岡さんの処分がどうなるかという大問題もあります。

われわれ以外に展望を出せる人たちはいません。だから僕たちは、３月２０日の集会を、底抜けに明るい大勝利の集会として成功させよう。この４月１日からの新しい情勢をひっくり返していくような闘いを３月２０日にやりたいと。

逆に、倉岡さんの処分を阻止したと壇上から言うためには、がんばらないといけない。本当に阻止しなきゃいけない。本気になって闘う。勝つために必死になって考える。

勝つというところから問題立てたらもっといろんなことが生まれきます。具体的方針を必死になって考え抜く。

動労千葉なんてそうじゃないですか。本当に阻止するところから集会をやって、ストライキを打つ。本当に考え抜いて方針をつくって、それで団結している、この攻



撃を突破している。

だから、正しいことをアジっているだけじゃもうダメです。それだけでなく具体的な方針が今必要です。本当に勝つ。3・20の壇上から、あらゆる人が勝ったんだという事を言いまくる、そういう集会になんとかしていきたい。

だから、特に学生は必ず勝利して、倉岡さんの処分を必ず阻止して3・20に結集しよう。



【2】法大国際文化学部1年生の3・20アピール

法大生の皆さん！ 3・20反戦集会と渋谷デモへの大結集を呼びかけます。今年の反戦集会は例年とは一味違います。それはチュニジアで革命がおき、それがエジプト、中東全域、そして全世界へと波及している中で闘われるということです。

今全世界で、特にエジプトで起きている革命はまさに戦後のアメリカ中東支配体制を根底から崩壊させる出来事です。だからこそこの革命を、アメリカは従属国であるイスラエル等と協力して、必ず軍事的に圧殺しようとすることは間違いありません。

今こそ私たちは膨大なる基地と日米安保の存在をもって、アメリカの戦後支配を支え続けてきたこの日本で、エジプトの革命に呼応して立ち上がらなければなりません。3・20へ結集してともに反戦行動に打って出ることこそが、エジプトの革命と真に連帯して闘う道であると確信します。

この30年に渡る独裁体制を打ち破ったエジプト革命を扇動し、ストライキを呼びかけたのは「4月6日運動」という2008年に結成した青年労働者の小さな運動体です。巷ではフェイスブックによる宣伝やイスラム原理主義者の扇動ばかりが強調されてますが、彼らの独裁政権下における3年の死闘がなければエジプトの革命も存在し得ませんでした。

日本ではどうでしょうか？ 法政大学では2006年の3・14弾圧以来学生運動が高揚し、警察や公安、違法職員までも動員したすさまじい弾圧体制下にもかかわらず、今もなお、全国規模で着々と組織を拡大しています。それはどんなに過酷な状況でも、希望を失わずエジプトの闘いと同じく、

決して自分の拠って立つ生活空間、キャンパスから逃げる事なく闘い続けた結果なのです。いかに堅牢に見える体制も、いつかは綻びが生じます。日本でも客観的な条件は成熟しています。自殺者三万人、大学内定率が半分、青年の4割が非正規労働者や派遣。そして大失業…。あとはただ一点。革命を行う私たち学生・青年の主体の問題なのです。革命勢力の軸として、この時代に学園闘争を目に見える形で生み出した法大の学生運動を押し上げることこそが、必要なのです。

今こそ法大学生運動の爆発を勝ち取り、集会に掲げられているスローガンをすべて実現させようではありませんか。エジプト革命と連帯し、日本でも革命を爆発させようではありませんか！！



処分阻止！ 法大門前集会（2月23日）